用であると同時に日本の海藻相の全貌を知るのに不可欠の出版物といえる．海藻を調査研究する人だけでなく，大学の図書館や海藻の調査研究に関係をもつ研究所や試験場等には必備の本である． （千原光雄）

□大阪府立大学総合情報センター：**中尾佐助文献・資料総目** 159 pp. 1997. 同センター（593 堺市学園町 1-1）．

1993年11月20日亡くなられた中尾佐助氏所蔵の，研究関連文献・資料の提供を受けた大阪府立大学総合情報センターが，そのすべてを情報化したリストである．同氏の蔵書については，すでに同学図書館に登録しているので，除かれている．文献，オリジナル資料（スライド，ネガ，ノート，テープなど），研究用資料（原稿，メモ，日記など），参照資料の4部から成る．冒頭に略歴，探検歴および梅棹忠夫氏による50年の交遊の回顧があり，故人の人柄がいきいきと描写されている．敗戦後はじめての，京都大学学士山岳会によるマナスル登山計画は，のちに日本山岳会による国家的プロジェクトになるのだが，中尾氏はその最初の学術調査隊に加わり，ただ一人で収集した膨大な標本類が，わが国のヒマラヤ植物研究の出発点となった．旅行記「秘境ブータン」によって，ヒマラヤの未知の領域への関心をかき立てられた人は多いだろう．中尾氏の提唱した照葉樹林文化という単語は，今や人口に膾炙している．「分類学の発想(1990)」では，広範な知識に裏付けられたユニークな議論の展開がみられる．そういう異色な人物の思考の元になった資料の一覧である．個人のコレクションが寄贈されても，そのすべてを整理するということは，たいへん面倒な問題が多く，なかなかできるものではない．項目の仕分けかた，見出しのつけ方などについても，参考になることが多いだろう．頒布についてはセンターに問い合わせられたい． （金井弘夫）

□Jones P. G. and Sutton J. M. (eds.)：**Plant Molecular Biology; Essential Techniques** xvi+214 pp. 1997. John Wiley & Sons, Chichester, UK. £19.17; $28.80.

本書は現在使われている植物の分子生物学に関する実験方法のうち，最も重要と思われるものを学術雑誌や書籍から抜粋した実験テクニック集である．項目は，蛋白質や核酸の抽出に始まり，遺伝子構造の調査，転写の確認，蛋白質の視覚化による遺伝子発現の確認，クローニングや形質転換に必要な遺伝子操作，レポーター遺伝子の検出等による形質転換の確認など，遺伝子組み換え植物を作り出すまでの一連の実験方法が網羅されている．おのおのの項目は実験の種類ごとに概要とプロトコルが記述され，各プロトコルは試薬，設備，手順，注釈の4つの見出しに整理されていて，とてもわかりやすい作りになっている．また、各プロトコルはその出典が明示されているので，原典を参照するのにも便利である． （近藤健児）